
棘姫 - IBARAHIME -

宮火

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

棘姫 - I B A R A H I M E -

【Nコード】

N 7 0 2 6 K

【作者名】

宮火

【あらすじ】

枯れた白い薔薇。

その花言葉は。

古い洋館に続く田舎道。

白い薔薇の花束を片手に持ち、歩く。

洋館に着くと、重い扉を軋む音と共に開く。

ギギギ・・・、キイ・・・。

耳にくる。

暗い入り口の電気を付けようと、手探りで探す。

見つけると、パチ、と押すが、付かない。

気にせず中に入り、1つの部屋に向かうと、扉を叩いた。

返事はない。

今度は、軽い扉をゆっくり開ける。

この部屋も暗い。

傍にある椅子や机、ベッドを横目に通り過ぎ、大きな窓を隠す力

ーテンを開ける。

眩しさを覚える。

窓を開けると、春風が優しく流れる。

「それ、綺麗だね」 背後から細い声が聞こえる。

振り向くと、さっさと通り過ぎたベッドに横たわる少女がこちらを見ている。「・・・いつから起きていた？」

低い声で言う。

「怒ってる？」

少女はクスクス笑いながら、こちらに右手を差し伸べた。少し待ってから、近寄る。

薔薇の花束を手渡すと、ベッドの端に座る。

少女は薔薇を一輪抜くと、茎の棘を気にせずに握った。

「刺さるよ……」

小さく呟くと、目を合わせにつこりと笑った。

薔薇の花びらが、プチ、と音を立てて茎から離れた。

少女はその花びらを両手に取り、破いた。

そして、一輪すべての花びらを細かく千切ると、薔薇は茎しか残らなくなった。

「どうして、花びらを千切るんだ？」

小さくなった薔薇を摘まんで聞く。

彼女はニコニコしたまま花びらを千切る。

薔薇の花束は花びらを散らし、美しさの欠片も失ってしまった。それに引き換え、ミストグリーンのベッドシートには純白の薔薇の花びらが、芸術的に散っていた。

ベッドに横たわる彼女は、薔薇に包まれている眠り姫のようだった。

「……だって、早く枯れるじゃん？」

先程の質問の答えだろうか。

「枯らしてどうするの……」 呆れたように言うと、彼女がこちらを向いた。

その刹那、開け放たれた窓から、強い春風。

部屋の中で風が回る。

薔薇の花びらは、部屋に舞う。

飛び散る花びらの中から彼女が現れ、抱き締められる。
耳元で何かを呟かれた。

『枯らして、花言葉を成立させるの』

そう言っていると、俺たちは顔を合わせる。
そして、笑い合う。

枯れた白い薔薇の花言葉は

『生涯を誓う。』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7026k/>

棘姫 - IBARAHIME -

2010年10月16日00時47分発行